

次期スポーツ推進計画の基本理念・目標の設定

スポーツには自発的な参画を通して、楽しさや喜びを感じることができるという「スポーツそのものが有する価値」と、「スポーツが社会活性化等に寄与する価値」があり、このスポーツが持つ「チカラ」を高め、価値観の多様化や少子高齢化、人口減少などの社会情勢の変化に伴う新たな時代の様々な社会課題を解決するため、既存の仕組みにとらわれないスポーツ機会の創出や、スポーツによる共生社会実現に向けた先進的な取組、ICTを活用した健康増進といった先端技術の導入など、世界をリードする高次元のまちづくりに取り組むことで、「次のステージのさっぽろ」を目指します。

基本理念

スポーツのチカラでまちのミライを切り拓く ～ひとも、まちも、次のステージへ～

目標

1 スポーツを通じて市民が生き生きとくらすまち

- 市民誰もが、一人一人のニーズに合わせて気軽にスポーツに参画し、楽しむことができ、生涯にわたって心身の健康が増進され、活力に満ちた生活を送れていることを目指します。

2 ひととひとがスポーツでつながる共生のまち

- 年齢や国籍、障がいの有無などを問わず、市民が多様な形でスポーツに共に参画することができ、スポーツを通して関わり合うことで、相互に理解・尊重し合える社会が実現されることを目指します。

3 スポーツによるにぎわいであふれているまち

- 多種多様なスポーツ大会が開催されるなど、世界からスポーツ都市として注目され、国内外からスポーツ目的で人が集まることで、地域・経済が活性化することを目指します。

戦略ビジョンの概念

ウェルネス
(健康)

ユニバーサル
(共生)

スマート
(快適・先端)

基本計画の視点

「する」「つくる/はぐくむ」
「誰もがアクセスできる」

「ささえる」「誰もがアクセスできる」
「あつまり、ともに、つながる」

「みる」
「あつまり、ともに、つながる」

※ 戦略ビジョン・基本計画の視点は主に関連するものを掲載。

次期スポーツ推進計画の成果指標の設定

基本理念・目標の実現を図るため、7つの成果指標を設定。目標値については今後検討。なお、指標の選定にあたっては、国との比較検証のしやすさも考慮。現計画における成果指標は「スポーツ実施率（20歳以上・週1回）」、「スポーツ実施率（障がい者・20歳以上・週1回）」、「ウインタースポーツ実施率（18歳～49歳・年1回）」、「直接スポーツ観戦率（18歳以上・年1回以上）」の4項目

目標	1 スポーツを通じて 市民が生き生きとくらすまち		2 ひととひとがスポーツでつながる 共生のまち		3 スポーツによるにぎわいで あふれているまち
No	成果指標	関連 目標	2021（R3） 直近値	現計画 目標値	補足・目標値検討に係る考え方など
①	スポーツ実施率 （20歳以上・週1回）	1	57.7%	65.0%	【継続】スポーツを「する」市民・地域の状況を示すための指標。 国との比較検証可能。国は目標値を65%から70%に引き上げ 参考：R3の週3回以上のスポーツ実施率は市29.1%、国30.4%
②	スポーツ実施率 （障がい者・20歳以上・週1回）	2	49.7%	50.0%	【継続】スポーツを「する」市民・地域の状況を示すための指標。 国との比較検証可能。国は目標値40%を継続しているが本市は達成済。
③	ウインタースポーツ実施率 （18歳～49歳・年1回）	1	19.5%	25.0%	【継続】スポーツを「する」市民・地域の状況を示すための指標。 2030オリンピック・パラリンピック冬季競技大会概要（案）では2030年までの 目標値を30%と設定。
④	直接スポーツ観戦率 （18歳以上・年1回以上）	3	22.4%	50.0%	【継続】「みる」スポーツの推進状況を示すための指標として必要。 現行計画の目標値50%を未達成。
⑤	スポーツ目的の来札観光客数 （道外・海外）（※1）	3	調査中	—	【修正】スポーツツーリズムや大会誘致による地域活性化・経済波及効果を示すための指標。現行計画の指標では来札目的を「ウインタースポーツ」、来札期間を「1月～3月」、対象を「海外」観光客のみに限定。
⑥	スマイルサポーターズ登録者数 （スポーツボランティア）	2	1,234人 （2022数値）	—	【新規】スポーツを「ささえる」人材の育成状況を示すための指標。 2030オリンピック・パラリンピック冬季競技大会概要（案）では2030年までに2,000人の登録を目標値と設定（100人/年で増加）。
⑦	強化指定選手に選出されたアスリートの育成数（年代別含む）	1	8人 （延べ数）	—	【新規】競技力向上の状況を示すための指標。 札幌市と札幌市スポーツ協会が2020年から取り組んでいる、さっぽろジュニアアスリート発掘・育成事業（夏季3種目：陸上・テニス・バドミントン、冬季5種目：スノーボード・スキージャンプ・カーリング・フリースタイル・ノルディック複合）の育成選手から強化指定選手に選出されたアスリート数を目標値と設定。2020年からの2年間で、4種目・延べ8人が選出。

※1 観光・MICE推進部が公表する「観光客動態調査」における「札幌滞在中の目的」として「スポーツをする（スキー、ゴルフなど）」又は「スポーツ観戦（プロ野球、サッカー、ゴルフなど）」の選択率を乗じて算出。

次期スポーツ推進計画の目標に係る現状分析

札幌市の現状を分析し、目標を実現するための課題・傾向を考察。

目標	社会情勢の変化、市民の運動・スポーツ実施状況(成果指標達成状況・アンケート結果)	課題・傾向
市民がスポーツを通じ、生き生きとくらしを遂げる	【社会情勢の変化】 ● 高齢化が進行し、人生100年時代が到来する一方、札幌市の健康寿命は全国平均以下。 ● 子どもの体力・運動能力調査ではほとんどの種目で全国平均以下。 ● 東京2020オリ・パラ大会における日本のアスリートの活躍により、国民のスポーツの興味関心が向上。 ● 国において休日の部活動の段階的な地域移行を推進。 【成果指標の状況】 ● 成人のスポーツ実施率は57.7%と目標を未達成。 特に20～40歳代のビジネスパーソンや子育て世代のスポーツ実施率が低い。 ● 種目別ではウォーキングなどの一人でもできる軽い運動の実施率が高い。 ● ウインタースポーツ実施率は20%前後で横ばいで推移。 ● ナショナルチームに選出されたアスリートの育成数（延べ数）は8人となっているが、未選出種目が半数。 【アンケート結果（主な回答）】 ● 運動・スポーツを行う目的は「健康・体力増進、維持」が多数。 ● ウインタースポーツを実施しない理由は「寒い」「用具が高い」「施設が遠い」「出来るかどうか不安」が多数。 ● 新たに運動・スポーツを始めるために重要なことは、「身近に行える場所があること」が多数。 ● 競技力向上に向けた主な課題は「競技人口の減少」「活動場所の不足」「指導者の不足・減少」が多数。	➢ 高齢者、子ども、ビジネスパーソン、子育て世代などが気軽に行える運動機会が不足。 ➢ 部活動の地域移行後も、スポーツに継続して取り組むことができる機会の確保が必要。 ➢ 健康・体力づくりを目的としたスポーツ参加の市民ニーズが高い。 ➢ 屋外での軽い運動や一人でも気軽に来れる種目は、積雪や天候などにより冬季間に制限される。 ➢ ウインタースポーツ実施においては経済的負担や施設へのアクセスが悪いといった阻害要因の解消が必要。 ➢ 身近に運動・スポーツを行うことができる環境を整備することがスポーツ実施には必要。 ➢ 競技力向上のためには、競技者増や、多種多様な練習環境の整備、指導者の育成が必要。 ➢ 市民のスポーツへの興味関心を向上させるためには、トップアスリートやトップスポーツと触れる機会を増やすことが有効。
がひと共のまちがスポーツでつながる	【社会情勢の変化】 ● 価値観やライフスタイルの多様化が進行。 【成果指標の状況】 ● 障がい者スポーツ実施率は50%台と横ばいで推移。 ● スマイルサポーターズ登録者数1,234人と不足。 【アンケート結果】 ● 障がい者スポーツに関わったことがない市民が約9割。 ● 関わったことがない理由は「機会がない」「情報がない」が多数。 ● 障がい者スポーツ振興に必要なと思うことは「身近な場所に障がい者スポーツができる場所があること」「障がい者スポーツについて、周知・広報により理解が深まること」が多数。 ● スポーツボランティアを経験したことない市民が約9割。 ● スポーツボランティアを始めるために重要なと思うことは「身近な場所で参加できること」「ボランティアに関する情報が入手できること」が多数。	➢ 多様な人たちがスポーツに参加することができる環境が必要。 ➢ 障がい者スポーツ実施率向上に向けた、身近な障がい者スポーツの場や環境が必要。 ➢ 障がい者スポーツに関する情報の市民への周知・広報が不足。 ➢ 障がいの有無を問わず、障がい者スポーツに参画できる機会が不足。 ➢ 身近なスポーツ大会やスポーツイベントなどで、スポーツボランティアとして参加できる環境が不足。 ➢ スポーツボランティアに関する情報の市民への周知・広報が不足。
いスポーツであふれにぎわ	【社会情勢の変化】 ● 高齢化や人口減少が進行 ● ラグビーワールドカップ2019や2020東京オリンピック競技大会などの大規模な国際大会を開催 ● 2030年冬季オリンピック・パラリンピックの招致・開催 【成果指標の状況】 ● 直接スポーツ観戦率は新型コロナの影響もあり、22.4%と減少傾向（R2以降は半減）。 ● ウインタースポーツ目的の来札外国人観光客数116千人（R1実績。R2以降は調査未実施） 【アンケート結果】 ● 直接観戦したいと思うきっかけは「チケットがもらえた、安く買える」「施設が近い」が多数 ● 直接観戦したいウインタースポーツは「フィギュアスケート」「カーリング」が多数。	➢ 人口減少が進行する中において、国内外の観光客の来訪などによる交流人口増が必要。 ➢ 大規模な国際大会の開催ノウハウやレガシーを有効に活用。 ➢ 冬季オリ・パラの招致・開催に向けて、市民理解の促進やウインタースポーツ環境の整備が重要。 ➢ 市民が直接観戦しているスポーツがプロ野球、プロサッカー、マラソンなどのメジャースポーツへの偏りが見られる。 ➢ 新型コロナ禍における来札観光客の目的やニーズの変化などへの対応が必要。

次期スポーツ推進計画の方針の設定

課題・傾向を解決するために必要となる取り組みを9個の方針として設定

方針案と想定される施策例

①誰もがスポーツに参加できる機会の創出

- 高齢者や子ども、ビジネスパーソンなど、様々な主体が、それぞれの目的・状況に応じてスポーツに取り組める機会の創出
- ・スポーツ体験会の開催、子どもの体力・運動能力向上事業の実施、各区体育館におけるスポーツ教室の実施、ウォーキングの推進、地域への「健康づくりサポーター」の派遣等、健康づくりセンターにおける健康づくり、冬季における雪遊び・雪体験の推進、区の特色やスポーツ施設を活用したスポーツの普及促進、体育振興会の活動支援、運動部活動の地域移行への支援

②多様なニーズに合わせてスポーツに取り組める場の確保と充実

- 目的・競技レベル・生活習慣等に合わせてスポーツに取り組めるよう、多様なニーズに対応したスポーツ実施場所の確保・充実
- ・スポーツ施設の設置・改修、スポーツ施設の利用時間延長、学校施設開放事業の実施、民間事業者による施設整備への補助

③世界で活躍するトップアスリートの輩出

- 世界レベルのトップアスリートの輩出に向けた発掘・育成の取組を推進するとともに、アスリートの活躍による市民のスポーツ機運向上を図る
- ・アスリートの発掘に向けた体力測定会、アスリートの育成支援（経済的支援等）、アスリートの練習環境整備、運動部活動へのアスリート派遣、総合型ハイパフォーマンススポーツセンターの誘致、地域のスポーツ体験会等へのオリンピアンへの派遣、スポーツ協会による競技団体向け講習会の実施

④障がい者スポーツの推進

- 障がい者スポーツをできる身近な場所の整備や、障がいの有無を問わず、障がい者スポーツに関わる機会を創出し、障がい者スポーツへの参画を促進
- ・障がい者スポーツ体験会の実施、障がい者スポーツ大会の開催や選手派遣の支援、パラアスリートの発掘支援、障がい者スポーツボランティア講習会の開催、学校施設開放事業における障がい者スポーツ専用枠の設置、障がい者スポーツセンター等の設置検討、障がいの種別や特性を考慮したスポーツ施設の運営

⑤スポーツを通じた交流機会の創出

- 大規模な国際大会をはじめ、様々なスポーツ大会やイベントなどにおける、国際交流・ボランティア活動・地域交流等を促進し、人々の交流機会を創出
- ・スマイルサポーターズの育成と大会等での活動支援、スポーツ推進委員の活動促進・支援、国際スキーマラソン等の国際大会における交流、国際交流館における国際交流事業の実施

⑥スポーツをみる機会の充実

- 国際大会の開催経験やプロスポーツチームとの連携体制を活かし、市民が多種多様なスポーツの試合や大会を観戦する機会の充実を図る
- ・プロスポーツチームとの連携によるまちづくり、プロスポーツ・トップスポーツの試合開催支援、シティクロスカントリースキー大会の開催、国際大会や事前合宿の誘致、アーバンスポーツやバーチャルスポーツなどの新たなスポーツ分野の大会・イベントの誘致・開催支援

⑦スポーツツーリズムの推進

- 国際大会のレガシーや札幌市のウィンタースポーツ環境などを活かして、札幌でスポーツを楽しむ観光客を増やすための取組を推進し、交流人口の拡大を図る
- ・マラソンツーリズムの実施、スキープロモーションの実施、札幌マラソン等の大規模市民スポーツ大会・イベント開催、札幌ドームや大倉山などのスポーツ資源の活用促進

⑧誰もが身近にウィンタースポーツを楽しむことができる環境の充実

- ウインタースポーツ実施に係る経費の支援やウィンタースポーツに気軽に取り組める場を創出し、ウィンタースポーツを振興
- ・ウィンタースポーツ体験会の開催、スキーリフト料金・スケート貸靴料金の助成、ウィンタースポーツ観戦文化の醸成、スキーインストラクターの派遣、歩くスキーコースの設置・無料開放

⑨冬季オリパラ招致・開催を通じたまちづくりの推進

- 冬季オリ・パラの招致・開催を契機として、世界屈指のウィンタースポーツシティへの発展に向けたシティプロモートと環境整備を推進
- ・市民のオリパラ招致・開催機運の醸成、オリンピック・パラリンピック教育の実施、札幌ドーム周辺などのスポーツと集客交流の拠点づくり、スノーベースタウンSAPPOROの形成

次期スポーツ推進計画の施策体系

基本理念、目標、成果指標、方針の施策体系を整理

基本理念	スポーツのチカラでまちのミライを切り拓く　～ひとも、まちも、次のステージへ～						
目標	1　スポーツを通じて 市民が生き生きとくらすまち		2　ひととひとがスポーツでつながる 共生のまち		3　スポーツによるにぎわいで あふれているまち		
成果指標	目標 1		目標 2		目標 3		
	◆ スポーツ実施率（20歳以上・週 1 回）		◆ スポーツ実施率（障がい者・20歳以上・週 1 回）		◆ 直接スポーツ観戦率（18歳以上・年 1 回以上）		
	◆ ウィンタースポーツ実施率 （18歳～49歳・年 1 回）		◆ スマイルサポーターズ登録者数 （スポーツボランティア）		◆ スポーツ目的の来札観光客数（道外・海外）		
	◆ 強化指定選手に選出されたアスリートの育成数 （年代別含む）						
方針	内容				関連目標		
					1	2	3
	①誰もがスポーツに参加できる機会の創出				●	●	
	②多様なニーズに合わせてスポーツに取り組める場の確保と充実				●	●	
	③世界で活躍するトップアスリートの輩出				●		●
	④障がい者スポーツの推進				●	●	
	⑤スポーツを通じた交流機会の創出					●	●
	⑥スポーツをみる機会の充実						●
	⑦スポーツツーリズムの推進						●
	⑧誰もが身近にウィンタースポーツを楽しむことができる環境の充実				●	●	●
⑨冬季オリパラ招致・開催を通じたまちづくりの推進				●	●	●	